様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１６８６３

研究課題名（和文）中国人私費留学生のアルバイト経験とキャリア意識

研究課題名（英文）Part-time job experience and career awareness of Chinese international students

研究代表者
黄　美蘭（HUANG, MEILAN）

首都大学東京・国際センター・特任助教

研究者番号：３０７４７１２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では中国人日本語学校生と大学・大学院生を対象にアルバイトに従事した目的、アルバイトを通して得たと認識する肯定的側面、及び将来のキャリア意識について調査を行った。分析の結果、アルバイトの目的として『経済的理由』『日本社会・日本人との交流』『心理的満足』『消極的理由』の4因子が得られた。アルバイトの肯定感として『自己成長』『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『日本人の職務態度への学び』『金銭の獲得』『ネットワークの構築』の6因子が抽出された。将来のキャリア意識として『中国・日本関連企業への就職志向』『起業志向』『第三国志向』『日本での就職志向』『将来不透明性』の5因子が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　留学生が留学先を選ぶ決め手に「卒業後の留学先での就労が可能かどうか」が重要な選択肢になっていく（武田，2012）。日本ではアルバイトに従事しながら学業を続けられるという、「西欧ではアルバイトという手段で自活しながら勉学はできないことが多く、それが可能なのは日本しかない」（山田，2010）メリットが挙げられる。このような中、多くの中国人私費留学生が従事するアルバイトの経験が将来のキャリア意識に及ぼす影響について検討することは、今後の中国人留学生の受け入れ増にはもちろん、「出口」である日本国内での就職活動支援、中国人留学生と日本人の異文化間教育、留学生教育にも大いに役立つものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study examined the purpose of part-time jobs, the affirmation obtained from them and career awareness of Chinese students at language schools and those at universities. This study conducted factor analysis and multiple regression analysis. As the result, four factors emerged as for the purpose of the part-time job: "economic reason" "interchange with the Japanese society, Japanese people" "psychological satisfaction" and "negative reason." In addition, six factors were extracted as the affirmation of the part-time job: "self-growth" "recognition to a future carrier" "improvement of the Japanese ability" "learning of Japanese-style work practices" " earning of money" and "forming of human network." Furthermore, five factors were found out as future carrier awareness: "employment in Japanese company in China-oriented" "entrepreneur-oriented" " third nation-oriented" "employment in Japan-oriented" and "future uncertainness."

研究分野：異文化間教育、留学生教育、日本語教育

キーワード：中国人留学生　アルバイト経験　キャリア意識　アルバイトの目的　アルバイトの肯定感

１．研究開始当初の背景

日本学生支援機構における「平成 25 年度私費外国人留学生生活実態調査」によると、在日私費外国人留学生の 7 割以上（75.3%）がアルバイトに従事しており、職種は軽労働の「飲食業」が最も多く、全体の半数（48.7%）近くである。同調査における「平均月収入額」が最も多いのは「アルバイト」と答えた人が 6 割を超えている（66.1%）ことからも、私費留学生の多くがアルバイトを主な収入源としている様子が窺える。在日中国人私費留学生は私費留学生全体の 6 割以上（61.2%）を占めており、多くの中国人私費留学生もアルバイトに従事していると考えられる。

しかし、文化と習慣が違い、言葉も異なる国でのアルバイトは決して楽しいことばかりではない。特に、中国と日本は社会的状況も異なり、中国では大学卒業までアルバイトの経験を持つ学生が極めて少なく、日本でのアルバイトが初めての就労経験となる学生が少なくない。このような中、在日中国人留学生を対象にした先行研究では、中国人留学生はアルバイト先の日本人との接触において「被差別感」というネガティブな感情を抱いていることが報告されている（加賀美，1994；岡・深田，1994；葛，1999；2007；山田，2010；黄，2010 など）。黄（2010）は、中国人私費留学生を対象にアルバイト先で生じる被差別感について調査を行い、中国人私費留学生はアルバイト先の上司、同僚、利用客から被差別感を抱いており、被差別感の具体的な内容としては「アルバイトの拒否」や「日本人より不平等な待遇」などが多いという結果を得た。

その一方で、留学生は「アルバイトは日本語を実際に使用できる重要な学習リソース」（小島，2003:p211）だと認識しており、また、日本でのアルバイトは生きた日本社会の現実を学び、生きた日本語を学ぶ機会として、日本人学生のインターンシップのような機能を果たしている（浅野，2004）。つまり、アルバイトは留学生の日本語能力の向上や日本についての社会勉強において、肯定的な影響を与えていることが考えられる。しかし、これまでに、アルバイトの従事率が高いにもかかわらず、中国人私費留学生に焦点を当て、アルバイトを通して得た肯定的側面について検討した研究はほとんど見られない。

また、西・柳澤（2010）は、大学生における職業選択に関わる心理的状態に影響を及ぼす要因として、インターンシップやアルバイト活動など企業で働くことを挙げている。そこでは、大学生にとってアルバイトは、学生の立場で産業場面での適応や仕事の方法を学習することができる活動であり、アルバイトで働くことと組織で個人が社員として働くことは多くの共通点があるため、アルバイト先で学んだことが職業選択に影響を及ぼすと述べている。日本における生活で「経済問題」、「就職問題」を抱えながらも（久野，2011）、多くの中国人留学生は日本での進学や就職を望んでいる中、アルバイト先の経験が中国人留学生の将来のキャリア意識に及ぼす影響を探ることは大きな意義を持つと思われる。

２．研究の目的

多くの中国人私費留学生がアルバイトに従事しているものの、中国人私費留学生がアルバイトの経験をどのように捉えているのかについての研究は行われていない。また、アルバイトの目的の違いによってアルバイトを通して得たと認識する肯定感が異なると推測できるが、今まで両者の間の関連については検討が行われていない。以上を踏まえ、本研究では、アルバイトの従事率が高い中国人私費留学生を対象に、質的調査と量的調査を通してアルバイトの目的とアルバイトを通して得たと認知する肯定感について検討し、それらが中国人私費留学生の将来のキャリア意識に及ぼす影響について明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

1 年目の研究では、中国人男子私費留学生を対象に半構造化インタビューを実施する。まず、中国人男子私費留学生を対象に半構造化インタビュー調査を行い、中国人男子私費留学生のアルバイトの目的とアルバイトの経験について検討し、両者の関連を明らかにする。調査対象者の合意のもと、IC レコーダーでインタビューの内容を録音し、録音のデータは文字おこしを行う。次に、文字化したデータを、質的手法である KJ 法で分析を行い、研究結果を明らかにする。本研究は動機づけ理論を援用する。中国人私費留学生のアルバイトの目的が内発的動機づけの場合と外発的動機づけの場合、アルバイトを通して得たと認識する肯定感がそれぞれ異なることが予想される。

2 年目は、中国人私費留学生のアルバイトの目的、アルバイトを通して得たと認知する肯定感、及び属性が将来のキャリア形成に及ぼす影響を明らかにするため、質問紙調査を行う。1 年目の結果と黄（2015）で得られた結果に基づき、質問紙を作成する。次に、中国人私費留学生を対象に、質問紙を配布し、集まったデータは SPSS（Statistical Package for Social Science）で統計的処理を行う。因子分析により、中国人私費留学生のアルバイトの目的、アルバイトを通して得たと認識する肯定感、将来のキャリア意識の因子構造を明らかにし、ｔ検定を通して男女の差異を明らかにする。また、相関分析、重回帰分析を通して、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及び属性が将来のキャリア意識に及ぼす影響を明らかにする。

４．研究成果

（１）中国人男子私費留学生のアルバイトの肯定感とキャリア意識

本研究では、中国人男子私費留学生対象に、アルバイトに従事した目的、アルバイトを通して得たと認識する肯定感（以下、アルバイトの肯定感）及びアルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響（以下、キャリアへの影響）について明らかにすることを一つ目の目的とした（研究 1)。また、進路予定の違いによって、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、キャリアへの影響はどのように異なるのかを検討することを二つ目の目的とした（研究 2)。

中国人男子私費留学生 5 名を対象に、半構造化インタビューを中国語で実施した。インタビューデータは KJ 法を援用して分類・整理を行った。分析の結果、中国人男子私費留学生がアルバイトに従事した目的として、大カテゴリー『金銭獲得』11 件、『日本社会・日本人との接触と理解』9 件、中カテゴリー≪自己実現≫6 件が得られた。また、中国人私費留学生がアルバイトを通して得た肯定感として、大カテゴリー『日本社会・日本人の理解』45 件、『自己成長』26 件、『生活手段の獲得』14 件、『人間関係の形成』8 件が得られた。さらに、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響として『影響あり』12 件と≪影響の少なさ≫6 件に大別された。研究 2 では対象者の今後の進路予定である、「日本で起業」「日本で就職」「帰国して就職」別に対象者を分け、研究 1 で得られたカテゴリーを分類した。その結果、まず、将来の進路予定が「日本で起業」の場合、アルバイトに従事した目的は『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』≪自己実現≫である。また、アルバイトを通して得られた『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段の獲得』『人間関係の形成』を肯定的に認識している。将来のキャリアについては、≪仕事態度≫＜自分自身の変化＞＜新しい知識の獲得＞＜ネットワークの利用＞が影響を与えると認識している。次に、進路予定が「日本での就職」の場合、アルバイトに従事した目的は「日本で起業」の場合と同様に、『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』≪自己実現≫である。また、アルバイトの肯定感についても「日本で起業」の場合と同様で、『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段の獲得』『人間関係の形成』を肯定的に認識している。さらに、≪仕事態度≫＜自分自身の変化＞＜新しい知識の獲得＞においては将来のキャリアに影響を与えると考えているが、一方で、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす≪影響が少ない≫と認識している。最後に、将来の予定が「帰国して就職」の場合、アルバイトに従事した目的は『金銭獲得』である。また、アルバイトの肯定感として『日本社会・日本人の理解』『生活手段の獲得』を認識しており、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす≪影響が少ない≫と認識している。このように、将来、日本で「起業」「就職」など、日本との関わりを持ち続ける場合は、アルバイトの経験が将来のキャリアに影響を及ぼすと考えているが、「帰国して就職」など、日本との関わりを持ちたいと考えない場合は、アルバイトの経験をあまりポジティブに捉えない傾向が見られた。

（２）アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響―中国人日本語学校生の場合―

本研究では、日本語学校に通う中国人私費留学生（以下、中国人日本語学校生）に焦点を当て、アルバイトに従事した目的とアルバイトを通して自分自身が得たと認識する肯定感、及び将来のキャリア意識について質問紙調査を行い、それらの関連を明らかにすることを目的とした。

中国人日本語学校生を対象に、中国語版の質問紙を配布し回収した。中国人日本語学校生 114 名から回答が得られた。本研究ではその中で、来日後アルバイトの経験のある 68 名のデータを分析対象とした。対象データは SPSS による統計的手法で分析を行った。アルバイトの目的とアルバイトの肯定感、及び将来のキャリア意識の因子構造については、主因子法・プロマックス回転による探索的因子分析を行った。また、アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響については、アルバイトの目的と将来のキャリア意識を独立変数、アルバイトの肯定感を従属変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。分析の結果、中国人日本語学校生のアルバイトの目的として『日本社会・日本人との交流』『経済的理由』『心理的満足』『消極的理由』の 4 因子が得られた。また、アルバイトの肯定感として『日本人の職務態度についての学び』『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『金銭の獲得』『ネットワークの構築』『学業へのポジティブな姿勢の獲得』の 6 因子が得られた。さらに、将来のキャリア意識については『起業志向』『第三国志向』『将来不透明性』『日中関連企業への就職志向』『日本での就職志向』の 5 因子が得られた。アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響については、『日本社会・日本人との交流』『心理的満足』という社会的動機や内発的動機を持つ場合、アルバイトを通して様々な内容の肯定感を認識することがわかった。また、将来のキャリア意識について、『日本での就職志向』を持つ場合、アルバイトを通して自分自身が獲得したと認識する肯定的側面が多かった。中国人日本語学校生の将来のキャリア意識が日本語能力の向上や学業へのポジティブな態度に正の影響を与えていることが示された。

（３）在日中国留学生的打工目的和收获―日语语言学校的情况―（中国語）

本研究では、中国人日本語学校生を対象に、アルバイトの職種別にアルバイトの目的とアルバイトの肯定感がどのように異なるかを明らかにすることを目的とした。

中国人日本語学校生を対象に質問紙調査を実施し、114 名から回答が得られた。そのうち、アルバイトの経験のある 68 名のデータを分析対象とした。アルバイトの目的とアルバイトの肯

定感についてはプロマックス回転の因子分析を行い、アルバイトの職種別にアルバイトの経験の有無による差異についてはｔ検定を行った。分析の結果、中国人日本語学校生のアルバイトの目的として『日本社会・日本人との交流』『経済的理由』『心理的満足』『消極的理由』の 4 因子が得られた。アルバイトの職種別にアルバイトの経験の有無による差異を検討した結果、「中小企業・商社の事務の経験」の有無の場合、『心理的満足』『消極的理由』に差異が見られた。「中小企業・商社の事務の経験」がある場合ない場合に比べて、『心理的満足』のためにアルバイトに従事する傾向が高く、「中小企業・商社の事務の経験」がない場合『消極的理由』でアルバイトに従事することが分かった。

また、アルバイトの肯定感として『日本人の職務態度についての学び』『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『金銭の獲得』『ネットワークの構築』『学業へのポジティブな姿勢の獲得』の 6 因子が得られた。アルバイトの職種別にアルバイトの経験の有無による差異を検討した結果、「コンビニ・スーパーなどのレジの経験」と「中小企業・商社の事務の経験」の有無によって、アルバイトの肯定感が異なっていた。具体的には、「コンビニ・スーパーなどのレジの経験」がない場合ある場合に比べて、『将来のキャリアへの認識』『ネットワークの構築』『学業に対するポジティブな姿勢の獲得』が有意に高かった。「中小企業・商社の事務の経験」がある場合ない場合に比べて、『日本人の職務態度についての学び』『将来のキャリアへの認識』『日本語能力の向上』『ネットワークの構築』『学業へのポジティブな姿勢の獲得』において有意に高かった。中国人日本語学校生は「中小企業・商社の事務の経験」を通して、様々な肯定感を捉えていることが示された。

（４）中国人私費留学生のアルバイトの目的と職種がアルバイトの肯定感に及ぼす影響

本研究では、日本の大学・大学院に在籍している中国人留学生を対象にアルバイトの目的とアルバイトの触手がアルバイトの肯定感に及ぼす影響について明らかにした。中国人留学生に中国語版の質問紙を配布し 115 名から有効な回答が得られた。本研究ではその中で、来日後アルバイトに従事した経験のある私費留学生 103 名のデータを分析対象とした。因子分析の結果、アルバイトの目的として「日本社会・日本人との交流」「経済的理由」「心理的満足」「消極性」の 4 因子が得られた。アルバイトの肯定感として「日本人の職務態度の学び」「将来のキャリアへの意識」「日本語能力の向上」「学業へのポジティブな姿勢の獲得」「金銭の獲得」「自己成長」「学外のネットワークの構築」の 7 因子が得られた。また、アルバイトの職種については、アルバイトの肯定感に有意な相関傾向のある項目を採用し、来日後「コンビニ・スーパーのレジ」「中小企業・商社の事務」「中国語などの語学講師」の経験が「ある」、「なし」でダミー変数を作成した。性別については、男性と女性でダミー変数を作成した。

アルバイトの目的と職種がアルバイトの肯定感に及ぼす影響を検討するために、アルバイトの目的と職種、及び属性を独立変数、アルバイトの肯定感を従属変数とする重回帰分析を行った。重回帰分析の結果、「日本人の職務態度への理解」には「日本社会・日本人との交流」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.281***）。つまり、日本社会や日本人と交流する目的でアルバイトに従事した場合、日本人の真面目で責任感の強い仕事態度についての理解が得られる。「将来のキャリアへの認識」には「日本社会・日本人との交流」「心理的満足」「中国語などの語学講師の経験ダミー」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.573***）。日本社会や日本人と交流するため、また、アルバイトの内容が自己の趣味と一致することやアルバイトが将来の仕事に役立つと考えアルバイトに従事し、中国語などの語学講師の経験がある場合、アルバイト先で学んだことを将来の仕事先でいかせると認識する様子が窺える。「日本語能力の向上」には「日本社会・日本人との交流」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.434***）。つまり、日本社会や日本人と交流する目的を持ってアルバイトに従事した場合、日本語能力の向上が得られる。「学業へのポジティブな姿勢の獲得」には「心理的満足」「性別ダミー」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.350***）。アルバイトの経験が将来の仕事に役立つと考える場合、将来の仕事のためや専門知識の勉強に励むようになることがわかる。また、アルバイトを通して、女性のほうが男性より学業に対するポジティブな姿勢を獲得しやすい。「金銭の獲得」には「経済的理由」「中小企業・商社の事務経験ダミー」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.459***）。つまり、日本での生活を維持することや学費を得るためにアルバイトに従事し、中小企業や商社で事務職のアルバイトを経験する場合、アルバイトを通して生活費が得られたと認識する。「自己成長」には「日本社会・日本人との交流」「心理的満足」が正の影響を及ぼしていた（R^2=.410***）。日本社会や日本人と交流することやアルバイトの内容が自己の趣味と一致する場合、アルバイトを通して自己成長が得られると考える。最後に、「学外のネットワークの構築」には「日本社会・日本人との交流」が正の影響、「性別ダミー」が負の影響を及ぼしていた（R^2=.324***）。つまり、日本社会や日本人と交流するためにアルバイトに従事する場合、学外の日本人と交流できたと認識し、男性のほうが女性よりアルバイトを通して学外のネットワークが広がったと認識しやすい様子が窺える。このように、中国人私費留学生にとって「日本社会・日本人との交流」という社会的動機づけ、「心理的満足」という内的動機づけを持ってアルバイトに従事する場合、アルバイトの肯定感を認識しやすく、アルバイトの職種や性別もある程度アルバイトの肯定感に影響を与えることがわかった。

（５）アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識―中国人日本語学校生と大学・大学院生の場合―

本研究では日本語学校と大学・大学院に在籍している中国人私費留学生を対象に、アルバイトに従事した目的とアルバイトを通して得たと認識する肯定感及び将来のキャリア意識について質問紙調査を行い、日本語学校生と大学・大学院生の相違点やその関連を検討することを目的とする。研究課題は、中国人私費留学生の 1）アルバイトの目的はどのようなものか、2）アルバイトの肯定感はどのようなものか、3）将来のキャリア意識はどのようなものか、4）アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識は、日本語学校生と大学・大学院生でどのように異なるのか、5）アルバイトの目的と将来のキャリア意識及び学年はアルバイトの肯定感にどのような影響を及ぼすのか、である。

2017 年 12 月～2018 年 2 月まで、中国人日本語学校生と大学・大学院生を対象に質問紙を配布した。本研究では、集まったデータの中で来日後アルバイトをした経験のある 171 名（日本語学校生 68 名、大学・大学院生 103 名）のデータを分析対象とした。まず、因子分析の結果、アルバイトの目的について、『経済的理由』（α=.863）、『日本社会・日本人との交流』（α=.865）、『心理的満足』（α=.643）、『消極性』（α=.552）の 4 因子が抽出された．また、アルバイトの肯定感として、『自己成長』（α=.888）、『将来のキャリアへの認識』（α=.855）、『日本語能力の向上』（α=.796）、『日本人の職務態度の学び』（α=.883）、『金銭の獲得』（α=.813）、『ネットワークの構築』（α=.807）の 6 因子が得られた。さらに、将来のキャリア意識については『中国・日本関連企業への就職志向』（α=.678）、『起業志向』（α=.765）、『第三国志向』（α=.730）、『日本での就職志向』（α=.592）、『将来不透明性』（α=.639）の 5 因子が抽出された。次に、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識について、中国人日本語学校生と大学・大学院生の相違点を明らかにするため、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識の各因子について 1 要因分散分析を行った。その結果、アルバイトの目的『経済的理由』において、有意差が見られ（$F(3,166)=4.945$, $p<.001$）、博士前期課程と博士後期課程の学生が日本語学校生より『経済的理由』を重視していることが分かった。その他の因子については、有意差が認められなかった。また、アルバイトの肯定感『金銭の獲得』において、有意差が見られ（$F(3,166)=3.329$, $p<.05$）、博士後期課程の学生が日本語学校生より『金銭の獲得』を高く評価していることが分かった。なお、それ以外の因子については有意差が認められなかった。さらに、将来のキャリア意識『中国・日本関連企業への就職志向』において、有意差が見られ（$F(3,167)=4.695$, $p<.01$）、学部・博士前期課程・日本語学校の学生が博士後期課程の学生より、将来、中国や日本と関連する企業で働きたいと思っていることが分かった。『第三国志向』において、有意差が見られ（$F(3,167)=2.443$, $p<.10$）、学部生が博士後期課程の学生より、将来中国と日本以外の第三国でキャリアを積みたい意識が高かった。『日本での就職志向』において有意差が見られ（$F(3,167)=2.614$, $p<.10$）、日本語学校生が博士後期課程の学生より、日本で就職したい意識が高いことが分かった。それ以外の因子については有意差が見られなかった。最後に、重回帰分析の結果について述べる。アルバイトの肯定感『自己成長』に、アルバイトの目的『日本社会・日本人との交流』、『心理的満足』が正の影響、将来のキャリア意識『第三国志向』が正の影響を及ぼしていた。また、アルバイトの肯定感『将来のキャリアへの認識』に、アルバイトの目的『日本社会・日本人との交流』、『心理的満足』が正の影響、将来のキャリア意識『日本での就職志向』が正の影響、学年「学部ダミー」が正の影響を及ぼしていた。アルバイトの肯定感『日本語能力の向上』には、アルバイトの目的『日本社会・日本人との交流』が正の影響を及ぼしており、アルバイトの肯定感『日本人の職務態度の学び』には、アルバイトの目的『日本社会・日本人との交流』が正の影響、将来のキャリア意識『日本での就職志向』が正の影響を及ぼしていた。さらに、アルバイトの肯定感『金銭の獲得』には、アルバイトの目的『経済的理由』、『日本社会・日本人との交流』が正の影響、将来のキャリア意識『将来の不透明性』が負の影響を及ぼしており、アルバイトの肯定感『ネットワークの構築』には、アルバイトの目的『日本社会・日本人との交流』、『心理的満足』が正の影響、将来のキャリア意識『日本での就職志向』が正の影響を及ぼしていた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

（１）黄美蘭（2018）「中国人男子私費留学生のアルバイトの肯定感とキャリア意識」『人文科学研究』14，169-180（査読有）

（２）黄美蘭（2019）「アルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響―中国人日本語学校生の場合―」『日本語研究』39，印刷中（査読有）

（３）黄美蘭（2019）「在日中国留学生的打工目的和收获―日语语言学校的情况―」『中日教育论坛』8（中国語），印刷中（査読有）

〔学会発表〕（計５件）
（１）黄美蘭「中国人男子私費留学生のアルバイト経験とキャリア意識」『異文化間教育学会第38回大会』東北大学，2017.6
（２）黄美蘭「中国人日本語学校生のアルバイトの目的とアルバイトの肯定感―アルバイトの職種に着目して―」『中日教育研究協会2018年度研究大会』駐日中国大使館教育処，2018.4
（３）黄美蘭「中国人私費留学生のアルバイトの目的と職種がアルバイトの肯定感に及ぼす影響」『異文化間教育学会第39会大会』新潟大学，2018.6
（４）黄美蘭「中国人日本語学校生のアルバイトの目的と将来のキャリア意識がアルバイトの肯定感に及ぼす影響」『異文化コミュニケーション学会2018年度国際大会』中央大学，2018.8
（５）黄美蘭「アルバイトの目的とアルバイトの肯定感及び将来のキャリア意識―中国人日本語学校生と大学・大学院生の場合―」『留学生教育学会第23回年次大会』広島大学，2018.9

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。